



一隅を照らす

先週、5年生の集団宿泊教室がありました。例年、慶徳小、五福小、そして本校の三校合同で実施しています。今年は、金峰山少年自然の家が使えなかったため、菊池少年自然の家での活動です。

自然の家は学校とは違ってチャイムがありません。ですから、自分で時間を考えて行動することが必要です。次はどんな活動があるのか、何をしなければならないのか、見通しをもっていなと大変なことになります。集合時間に遅れたり、道具を忘れてきたりして活動を楽しめなくなります。

最初は自主的な行動ができず、注意を受けることもありましたが、徐々に仲間と声をかけたり、確認したりしながらできるようになっていきます。大きな成長です。

また、他の小学校の友達と同じ班で活動するのですから、最初は緊張もあったでしょう。でも、さすが子どもたち。すぐに仲良くなって一緒に楽しんだり、協力したりできるようになりました。

天狗杉ハイキングでは、結構急な坂道もありましたが、遅れがちな友達の歩みに合わせたり、励まし合ったりする姿が見られました。川遊びでは、笑顔で一緒にはしゃぐ様子を微笑ましく感じました。

寝食を共にし、一緒に活動する中で、協力すること、助け合うことの大切さをより強く感じてくれたのではないかと思います。そんな子どもたちに、キャンドルの集いで次のような話をしました。

中央にあるキャンドルの炎は、昼間の太陽のように全てを明るく照らすことはできません。しかし、自分の周りなら明るくすることができます。みんなもこのキャンドルのように周りを明るく照らす力をもっています。それはローソクの明かりのように小さいものかもしれませんが、部屋全体を明るくすることはできなくても、自分の近くや部屋の隅っこなら照らすことができます。

今日のハイキングを思い出してください。友達を待まったり、励ましたりした人がいるでしょう。助けてくれた人もいるでしょう。そのように友達のため、周りのために自分にできることを実行する。それが、明るく照らすということです。

一人一人の明かりは小さいかもしれませんが、みんなの力が集まれば大きな明かりになります。きっと素晴らしい学級、学校になっていきます。

この菊池少年自然の家で学んだことを、これからの学校や生活に活かしてください。